

# 伝統と先進技術が融合した 戦略シリーズのミドルサイズ

**Profile** | ドイツの老舗スピーカーブランド、クアドラルから新たに「シグナム・シリーズ」が登場した。その最も大きな特徴は、新たにリングラジエーター、Ricomツイーターを投入した点大きい。これはハイエンドモデルのみに搭載されていたもので、この価格帯のスピーカーに採用するのは極めて異例のこと。老舗ブランドとしての伝統を継承しつつ、新たなファンを獲得するために満を持して登場した戦略シリーズ。今号ではそのミドルサイズのトルボーイ型「70」をクローズアップしてその魅力を探る。

Text by  
**小原由夫**  
Yoshio Obara  
Photo by 田代法生



# QUADRAL SIGNUM 70

スピーカーシステム  
¥253,000(ペア/税込)※仕上げはブラックorホワイト

## Specifications

●形式:3ウェイ●基本デザイン:バスレフ●再生周波数帯域:32~32,000Hz●クロスオーバー:800/3,100Hz●能率(1W/1m):89dB●インピーダンス:4Ω●トゥイーター:RicomΣ●ミッドレンジ:155mmφTitaniumPP●ウーファー:155mmφTitaniumPP×2●サイズ:170W×900H×294Dmm●質量:17.32kg(1本)●取り扱い:ネットワークジャパン(株)

### 応答性能を極限まで追求した 新開発のリングラジエーター

ドイツのハノーバーにて1972年に設立されたクアドラル。スピーカー専業メーカーとして既に半世紀の歴史を誇るわけだ。この度リリースされた新しい中核シリズSIGNUM(シグナム)の中から、ここでは2種類あるトルボイのコンパクトな方、「SIGNUM70」を紹介しよう。

シリーズモデル共通の最大のセールスポイントは、新開発のリングラジエーター「RICOMΣ」の採用だ。振動板にシルクを用いている点が特徴で、質量0.31gと極めて軽量な上に、一般的なトゥイーターに比べて優れた応答性能を実現しているという。また、その支持方式に新しい手法を採用することで共振等も改善されている。

ミッドレンジとウーファアの振動板材料は、軽量で剛性の高いチタン蒸着ポリプロピレン。マグネットや磁気回路も本機用に最適設計された新しいタイプだ。本機では並列動作のダブルウーファー仕様となっており、ミッドレンジやトゥイーターとはエンクロージャー内で分離され、それぞれ専用

チューニングされたバスレフポートが備えられている。ウーファー口径のギリギリまで

絞られたフロントバッフルは、反射や回折現象に配慮した設計と思われる。そのスリムなエンクロージャーは、日本の住宅事情にも馴染みやすいサイズといえるだろう。出力端子はシングルワイヤリング仕様。仕上げはブラックとホワイト(いずれも光沢仕上げ)が用意されている。

なお、姉妹機として、SIGNUM70と同サイズのウーファアを搭載したブックシェルフ型2ウェイのSIGNUM20、ひとまわり大きい18cmミッドレンジと18cmダブルウーファアで構成されたSIGNUM90もラインアップされている。

### 朗々とした低音の響きで 揺るぎない実感も魅力

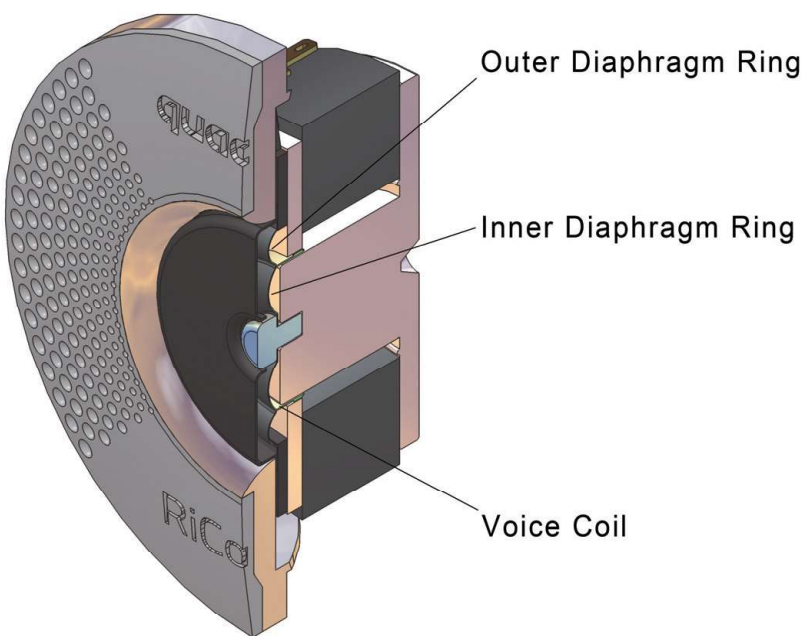
たいそうたっぷりとしたローエンドが特徴的な「SIGNUM70」。それはドイツ製スピーカーの王道といえるもので、クラシック、とりわけオーケストラを聴いた時の満足度が非常に高い。ダブルウーファアも効いていそう。ヒラリー・ハーンの独創ヴァイオリンが素敵な「シヨーン/詩

曲」では、チェロやコントラバスが支配する朗々とした低音の響きが分厚く膨らみ、管楽器のきらびやかな旋律を背にハーンのヴァイオリンが力強く奏でられる。ややコントラストの強い演奏に感じられなくもないが、それがクアドラルの持ち味なのである。

パトリシア・パーバーの女性ヴォーカルも肉付きのよい音像フォルムで、定位は克明かつ骨太。実感が揺るぎない。ガットギター

の伴奏が少し大きめの定位に感じられるものの、曖昧さのない逞しい響きだ。

脚部と床面のコンタクト(設置方法)によっても、ローエンドの振る舞いは大きく変わる。ダブルウーファアでインピーダンス4Ωというスベックからしても、組み合わせるアンプとの相性は顕著に現われそう。慣らすまでに様々な取り組み甲斐のあるスピーカーといつてよさそう。



新採用のRicomΣ(リコムシグマ)トゥイーターは超軽量(0.31g)のシルク素材リングラジエーター。従来のトゥイーターと比べて極めて優れた帯域特性、応答性を実現する。さらに、革新的なダイアフラムの支持方式により、共振の排除と応答性のいっそうの向上をはかっている